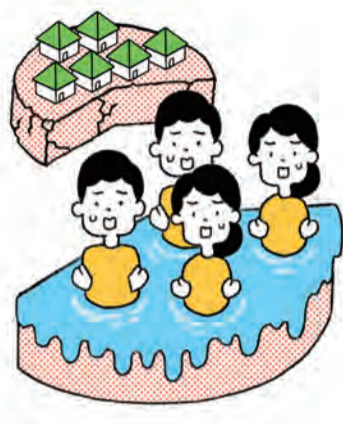


川崎市の
約**40%**
が洪水による
浸水の
可能性がある



洪水による浸水の可能性がある洪水浸水想定区域は、川崎市全域の約40%。洪水以外にも、舗装された都市部では、低地や道路のアンダーパスで冠水が起こる可能性があります。

数字でわかる
風水害

川崎市では 何が起きるの？

大雨が降ると、川が氾濫したり、がけ崩れが起きたりします。まずは、川崎市で起こる可能性があるリスクを知っておくことで、災害発生時に適切な行動をする準備ができます。

※平成27年の水防法の改正に伴う「想定し得る最大規模の降雨」により河川が氾濫した場合の想定



763カ所が
土砂災害の危険あり!?

川崎市北部を中心に、がけ崩れのリスクのある土砂災害警戒区域に指定されている場所が763カ所あります。避難に関する情報が発表されたら、早めに避難行動を！

最大浸水深は

約**20**m

浸水深3mは2階に到達する深さ。市内には浸水深10mを超えるところも予想される場所が多数あり、最大で約20m。今すぐハザードマップで確認を！



浸水後、水が引けるまで

4週間以上
かかるエリアも!

洪水により浸水深が50cm以上になってから、50cm以下になるまでの時間が4週間以上かかる場所も。避難に備えて、非常持出品の準備や家庭での備蓄が大切です。

雨の降り方を知って、危険をキャッチ!

洪水や土砂災害の発生は雨が原因。雨の降り方で災害の発生の仕方が変わります。

1時間雨量	予報用語	雨の降り方	災害発生時のリスク
10～20mm	やや強い雨	ザーザー降る	この程度の雨でも長く続くときは注意が必要
20～30mm	強い雨	どしゃ降り	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる
30～50mm	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る	がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要
50～80mm	非常に激しい雨	滝のように降る。車の運転は危険	マンホールから水が噴出。地下街に雨水が流れ込む
80mm～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある	雨による大規模災害の発生するおそれが高い

※地域特性により異なる場合があります



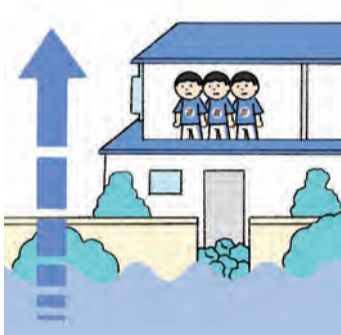
むやみな外出は控えよ！
屋内待機

自宅外へ避難する必要はなし。むやみな外出は控え、自宅で雨風の状況を見守るべし！



とにかく安全な場所へ
立ち退き避難

洪水が発生したときに、自宅にいては危険。避難所など、近隣の安全な場所や頑丈な建物に避難すべし！



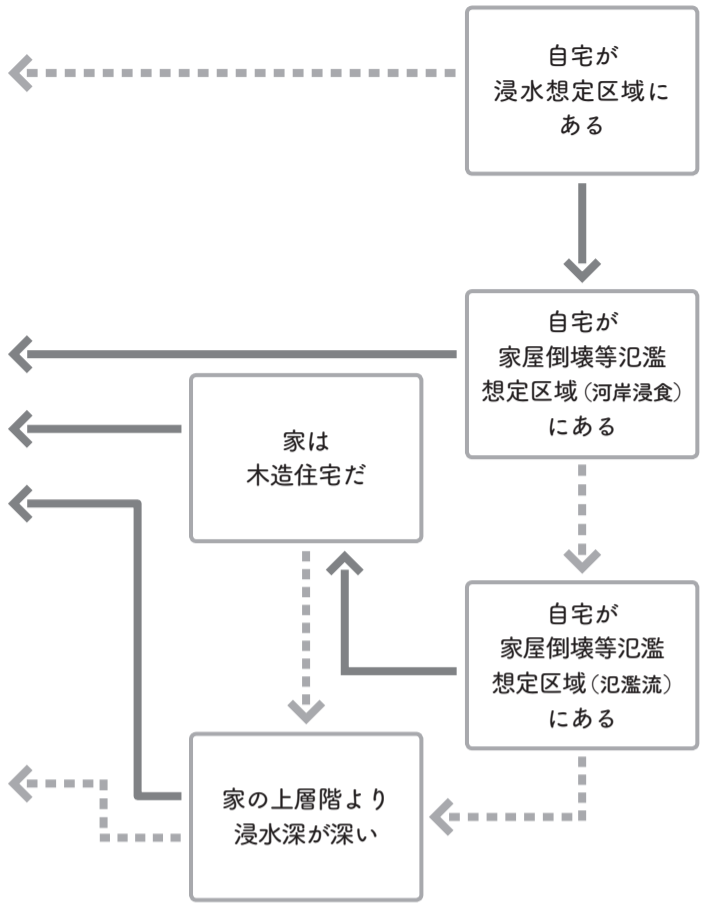
ひとまず自宅の上階へ
垂直避難

万が一、洪水が発生しても、自宅の上階に避難すれば大丈夫。数日分の備蓄をしておくとお安心。
※ 浸水が長時間継続する地域があります

※避難に関する情報は、河川の水位が上昇して、洪水の危険が迫った際に発表します

Start

case 1
洪水
からの避難
Yes
No



STEP 2
風水害の正しい
避難行動を知る

避難部と一緒に正しい知識を身につける
避難行動 Yes No チャート

「避難」といっても、洪水と土砂災害では避難方法が違います。ハザードマップとあわせて適切な避難行動を確認しよう。



What's 避難部

避難のスペシャリスト「避難部」。状況に応じた行動ができるように日々特訓中。

case 2
土砂災害
からの避難
Yes
No

Start

自宅が土砂災害警戒区域の中にある

土砂災害警戒区域に立ち入らない

避難に関する情報が
出たらすぐに行動

避難のオキテ

状況に応じて
避難行動すべし！

土砂災害警戒区域から離れることが一番安全ですが、急な豪雨など、避難所への移動がかえって危険なことも。どのような避難方法があるかを事前に知っておくことが重要。がけや前兆現象は見に行かないことが原則です。

こんな前兆現象が出たらがけ崩れの恐れあり

- 湧き水の量が増えたり、濁ったりしている
- 雨の日に小石がパラパラ落ちてくる
- 雨水が斜面を流れてできた溝がある
- 斜面の上や途中に浮いている石がある
- 斜面が膨らんできている
- 斜面に亀裂ができています

今いる場所から移動せよ
水平避難

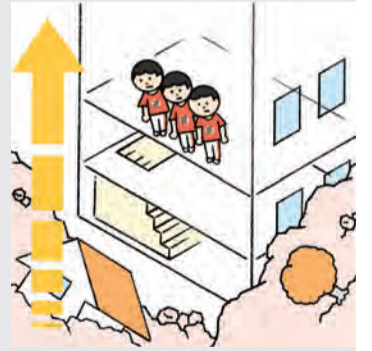
避難所や高台、土砂災害警戒区域の外にある知人宅などに避難すべし！

近くの安全な場所へ！
垂直避難

近くの頑丈な建物の2階以上へ移動せよ。なるべく上階に移動すべし！

屋外への移動がかえって危険
屋内避難

がけと反対側でなるべく高い階の部屋など、屋内の安全な場所に移動すべし！



※避難に関する情報は、大雨警報発表後も雨が降り続き、土砂災害の危険が高まった際に発表します